



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	サーバス大坪町レジデンス 新築工事	BEE	1.6	BEEランク	A	★★★★

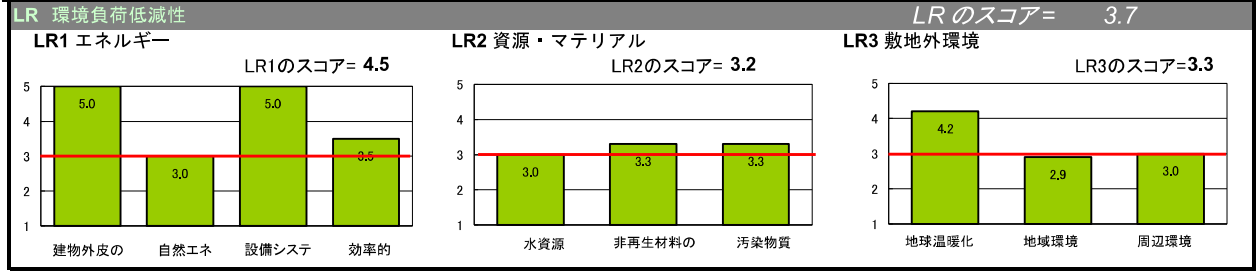
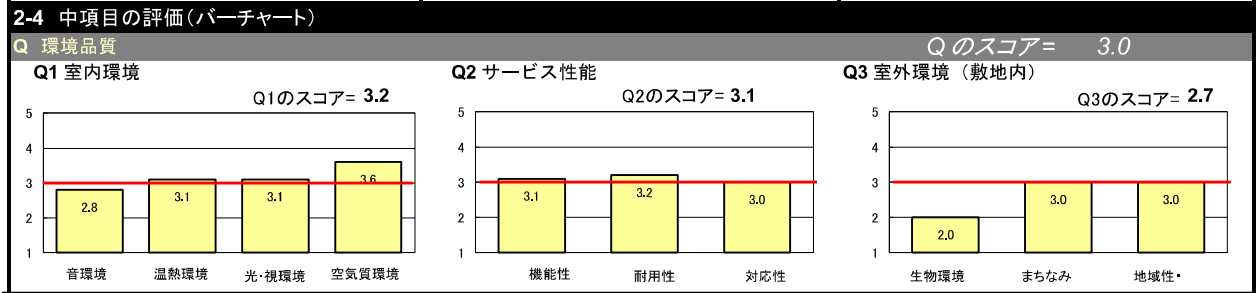
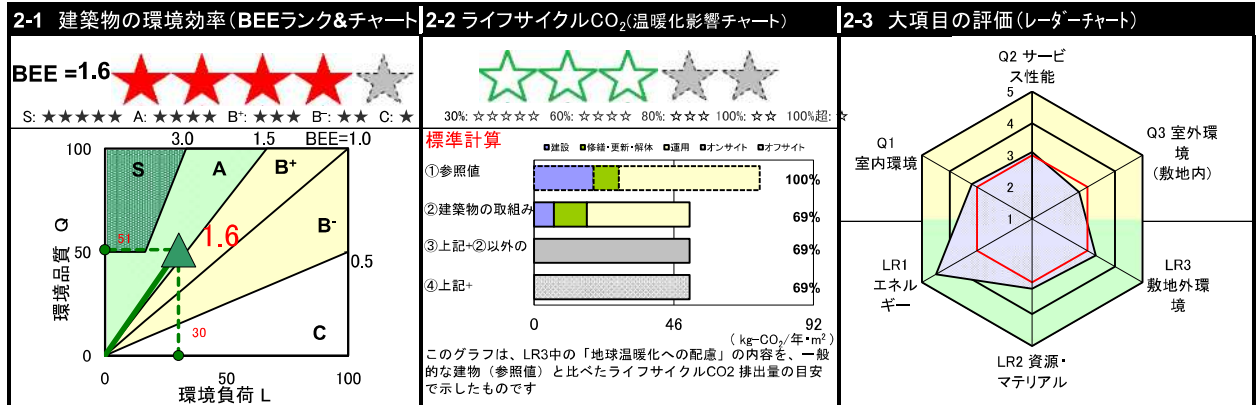
2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.7	/5		ふつう		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0	/5		ふつう		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.1	/5		ふつう		
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.9	/5		がんばろう		
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上		ふつう 3 点以上	
				がんばろう 3 点未満		

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	3.7
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)			
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)</p> <p>①日本住宅性能表示基準 断熱等級4を超える性能</p> <p>③カーテン・庇(バルコニー)にて昼光制御</p> <p>④日本住宅性能表示基準 劣化対策等級3</p> <p>④LDK:床フローリングt12壁ビニールクロス(PBt12.5)天井ビニールクロス(PBt9.5)</p> <p>④給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用</p> <p>④光ケーブルの引込、ケーブルTVによる災害情報入手、精密機械の地下空間への設置を避けている</p>	Q-1 2 2.1 2.1.2	① 外皮性能	
	Q-1 3 3.1 3.1.3	② 昼光利用設備	
	3.2 3.2.1	③ 昼光制御	
	Q-2 2 2.2 2.2.1	④ 躯体材料の耐用年数	
	2.2.2	④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔	
	2.2.3	④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
	2.2.4	④ 空調換気ダクトの更新必要間隔	
	2.2.5	④ 空調・給排水配管の更新必要間隔	
	2.2.6	④ 主要設備機器の更新必要間隔	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑤外構緑地指数31%を確保した。</p> <p>⑥緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。</p>		Q-3 1	⑤ 生物環境の保全と創出
	3 3.2	⑥ 敷地内温熱環境の向上	
<p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)</p> <p>⑦日本住宅性能表示基準 断熱等級4を超える性能</p> <p>⑧LED照明の採用、潜熱回収型給湯機の導入</p> <p>⑩MEMSの採用</p>		LR-1 1	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制
	2	⑧ 自然エネルギー利用	
	3	⑨ 設備システムの高効率化	
	4 4.1	⑩ モニタリング	
	4.2	⑩ 運用管理体制	
<p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)</p> <p>⑫躯体・軽鉄・仕上材のディテールを採用。</p> <p>⑬ODP=001未満、GWP=50未満の発泡剤を用いた断熱材を使用</p>		LR-2 1 1.1	⑪ 節水
	1.2 1.2.1	⑪ 雨水利用システム導入の有無	
	1.2.2	⑪ 雑排水等利用システム導入の有無	
	2 2.1	⑫ 材料使用量の削減	
	2.2	⑫ 既存建築躯体等の継続使用	
	2.3	⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
	2.4	⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
	2.5	⑫ 持続可能な森林から産出された木材	
	2.6	⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み	
	3 3.1	⑬ 有害物質を含まない材料の使用	
	3.2 3.2.1	⑬ 消火剤	
	3.2.2	⑬ 断熱材	
	3.2.3	⑬ 冷媒	
<p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑭省エネルギー対策LCCO2排出率69%</p>		LR-3 1	⑭ 地球温暖化への配慮
	2 2.2	⑮ 温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点	3.0
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑰光ケーブルの引込、ケーブルTVによる災害情報入手、精密機械の地下空間への設置を避けている</p>	Q-2 2 2.1 2.1.1	⑯ 耐震性	
	2.1.2	⑯ 免震・制振性能	
	2.4 2.4.1	⑰ 空調・換気設備	
	2.4.2	⑰ 給排水・衛生設備	
	2.4.3	⑰ 電気設備	
	2.4.4	⑰ 機械・配管支持方法	
	2.4.5	⑰ 通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点	3.1
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑳階高2.9m以上</p>	Q-2 1 1.1 1.1.3	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画	
	3 3.1 3.1.1	⑲ 階高のゆとり	
	3.1.2	⑲ 空間の形状・自由さ	
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮)</p>		Q-3 3 3.1	⑲ 地域性への配慮、快適性の向上
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点	2.9
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上)</p> <p>⑳外構緑地指数31%を確保した。</p> <p>㉑緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。</p>	Q-3 1	⑳ 生物環境の保全と創出	
	2	㉑ まちなみ景観への配慮	
	3 3.2	㉒ 敷地内温熱環境の向上	
<p>■敷地外環境対策 (⑲持続可能な森林から産出された木材/⑲温熱環境悪化の改善)</p> <p>⑲ピロティ・緑化を積極的に行うことで地表対策率を23.6%とした。</p>		LR-2 2 2.5	⑲ 持続可能な森林から産出された木材
	LR-3 2 2.2	⑲ 温熱環境悪化の改善	

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	サーパス大坪町レジデンス 新築工	階数	地上10F
建設地	静岡県静岡市駿河区大坪町293-1, 293-2	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	172 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年1月 予定	評価の実施日	2021年8月16日
敷地面積	1,411 m ²	作成者	水谷建築設計事務所 水谷 祥隆
建築面積	521 m ²	確認日	2021年8月16日
延床面積	3,772 m ²	確認者	水谷建築設計事務所 水谷 祥隆



3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合</p> <p>住宅性能評価で断熱性能4等級、一次エネルギー消費量5等級を取得する計画とし、省エネルギーに配慮している。敷地境界線際の植栽など、良好な緑地環境に配慮している。これは、CASBEE静岡(2016年版)による評価です。</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>断熱性能を平成28年基準による省エネルギー対策等級4を超えるものとし、外皮性能に配慮。F☆☆☆☆の内装建材を採用し、室内空気環境に配慮している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>躯体は劣化対策等級3相当とし、設備は耐用年数の長い配管材を採用し建物の長寿命化に配慮している。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>敷地内の日照・植栽条件に応じた中高木および緑地を設け、良好な緑地環境に配慮している。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>断熱性能を省エネルギー対策等級4相当、潜熱回収型給湯器、LED照明設備を採用することで省エネルギーに配慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>主要水栓に節湯C1、便器を節水型とし節水に配慮。P.S. 天井内配管等により設備との錯綜を回避し、部材の再利用の可能性を高めている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>ライフサイクルCO₂排出率を参照値より抑制し、地球温暖化への配慮をしている。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される